

釧路市地域公共交通網形成計画策定調査報告（概要版）

釧路市総合政策部都市経営課企画担当

【目的】 釧路市地域公共交通網形成計画を策定する上で、公共交通の現状・ニーズ等を把握するため、市内公共交通機関の主となる路線バスの利用状況、公共交通に関する住民ニーズ、若者の視点による公共交通の課題等について調査を実施。

【各調査】 I バス乗降調査
(平成28年7月12日～14日)

II 公共交通に関する住民ニーズ把握調査
(平成28年8月15日～31日)

III 学生ワークショップ
(平成28年10月7日、12日)

I バス乗降調査

1 調査概要

(1) 調査目的

釧路市地域公共交通網形成計画を策定する上で、現状の路線バスの利用実態を把握するために実施。

(2) 調査期間

平成28年7月12日（火）～7月14日（木）

※上記期間における各路線バスの一日の利用状況（始発～終発）を調査

(3) 調査対象

釧路市内で運行している路線バスの利用者

(4) 調査方法

調査員がバスに乗車し、バス利用者が乗車する際に調査票（ビンゴカード形式）を配付し、降車時に回収。

(5) 調査項目

- ① 利用者の属性（性別、職業、年齢）
- ② 利用状況（利用路線、利用時間帯、乗車・降車したバス停、バスの利用目的、バスに乗る前後の交通手段、乗車したバスの利用頻度、バス運賃の支払い方法）

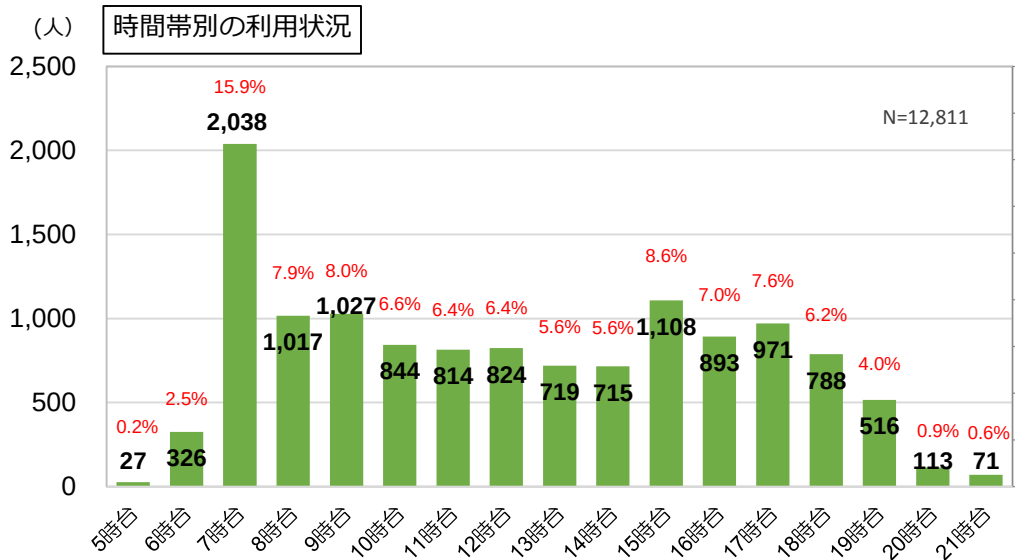
(6) 調査対象路線

くしろバス(株)（29路線）、阿寒バス(株)（12路線）が釧路市内で運行する路線

2 調査結果

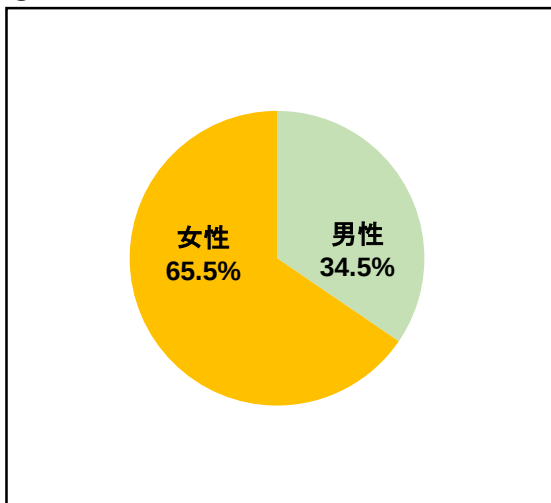
(1) 回答者等

- ・回答者 12,811人
- ・時間帯別の利用状況 7時台の利用が15.9%と最も高い。



(2) バス利用者の傾向

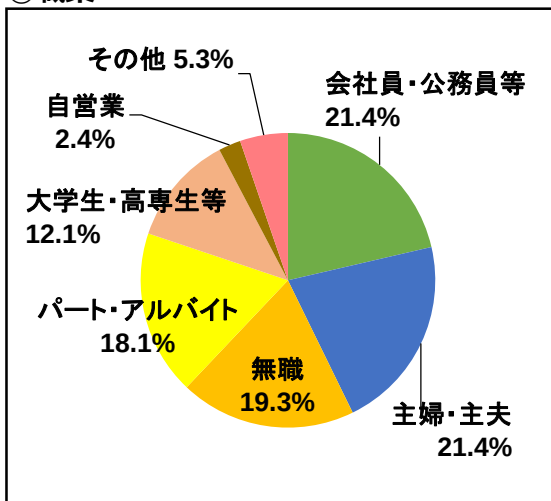
①性別



N=8,474

利用者は、「女性」が65.5%、「男性」が34.5%と、女性の利用者が多い。

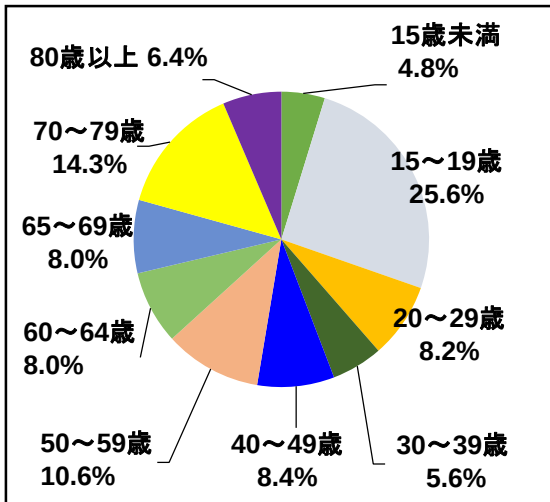
②職業



N=9,291

職業別では、「会社員・公務員等（21.4%）」と「主婦・主夫（21.4%）」の利用が多く、次いで、「無職（19.3%）」、「パート・アルバイト（18.1%）」となっている。

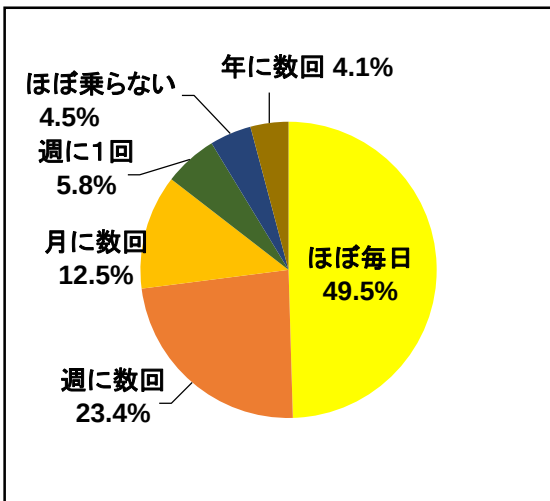
③年齢



N=9,603

年齢別では、「15～19歳（25.6%）」、「15歳未満（4.8%）」を合わせた20歳未満の利用者が3割を超えた。65歳以上の利用者は28.7%となっている。

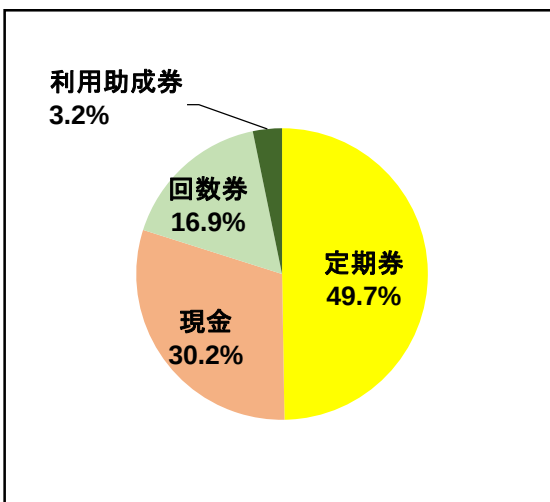
④利用頻度



N=9,328

利用頻度では、「ほぼ毎日（49.5%）」が最も多く、次いで「週に数回（23.4%）」となっている。

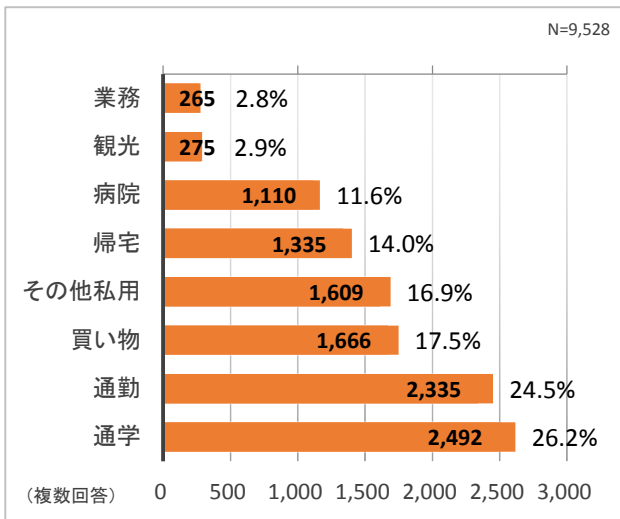
⑤バス運賃の支払方法



N=9,144

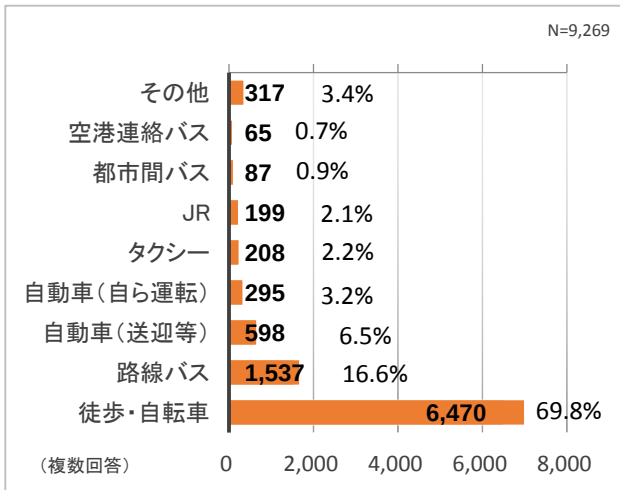
運賃の支払方法は、「定期券（49.7%）」が最も多く、次いで「現金（30.2%）」となっている。

⑥利用目的



利用目的別では、「通学（26.2%）」が最も多く、次いで、「通勤（24.5%）」、「買い物（17.5%）」、「その他私用（16.9%）」となっている。

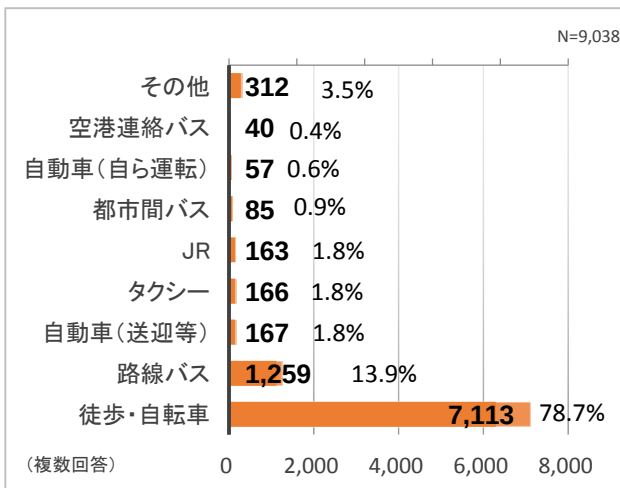
⑦バスに乗る前の移動手段



バスに乗る前の移動手段は、「徒歩・自転車（69.8%）」が最も多く、次いで、「路線バス（16.6%）※」となっている。

※乗換利用

⑧バスを降りた後の移動手段



バス降車後の移動手段は、「徒歩・自転車（78.7%）」が最も多く、次いで、「路線バス（13.9%）※」となっている。

※乗換利用

(3) バス停利用状況

250人以上	200～249人	150人～199人
釧路駅前	釧路中央郵便局	栄町 6 丁目
十字街 7 丁目		旭町
市立釧路病院		道銀前
新橋大通 6 丁目		商業高校
イオン昭和店		桜ヶ岡通
附属小学校		鳥取大通 2 丁目
釧路三慈会病院		大楽毛 2 丁目
工業高校		星が浦ショッピングセンター
十字街		白樺入口
大曲		大楽毛駅
湖陵高校		
大楽毛分岐		
高専		

※50人を単位として区分。上位 3 区分を掲載

Ⅱ 公共交通に関する住民ニーズ把握調査

1 調査概要

(1) 調査目的

釧路市地域公共交通網形成計画を策定する上での、市民の公共交通に対するニーズを把握するために実施。

(2) 調査期間

平成28年8月15日(月)～8月31日(水)

(3) 調査対象

釧路市内を釧路(8地域)、阿寒、音別に区分し、各地域から無作為に抽出した3,200世帯

(4) 調査方法・配布数

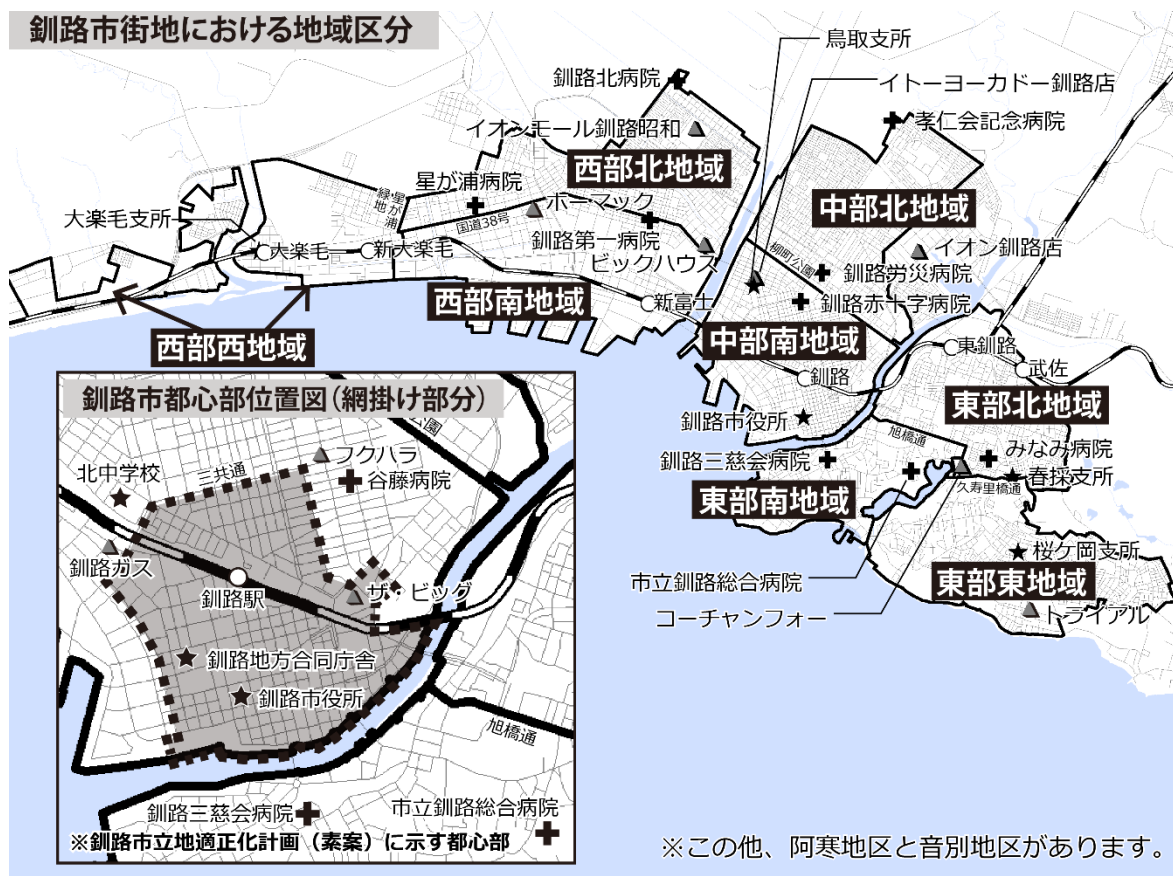
郵送による配布、回収

(5) 調査項目

- ① 個人属性(性別、年齢、職業、自動車運転免許及び自動車保有)
- ② 交通行動(通勤・通学、買い物、通院)
- ③ バス交通の満足度等
- ④ バス利用環境の変化に伴う利用意向

(6) アンケート回答結果

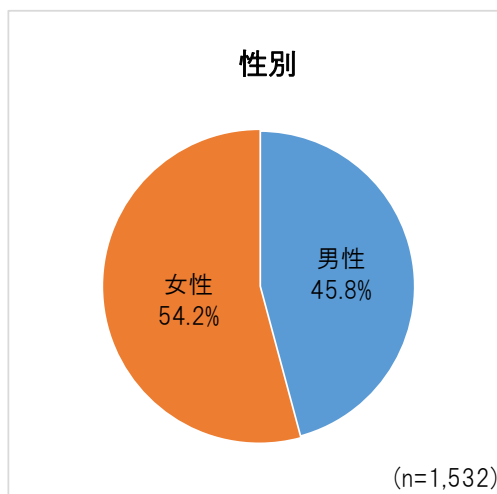
1,040世帯(1,474人) ※回収率(世帯ベース) 32.5%



2 調査結果

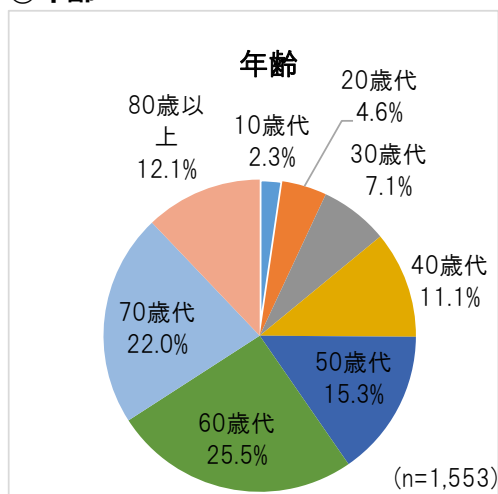
(1) 個人属性

①性別



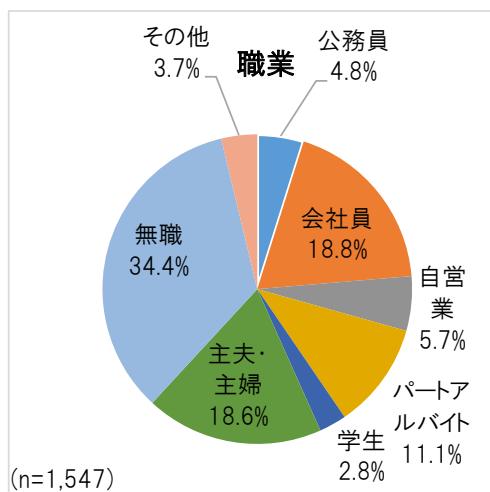
回答者の性別は女性が54.2%、男性が45.8%となっている。

②年齢



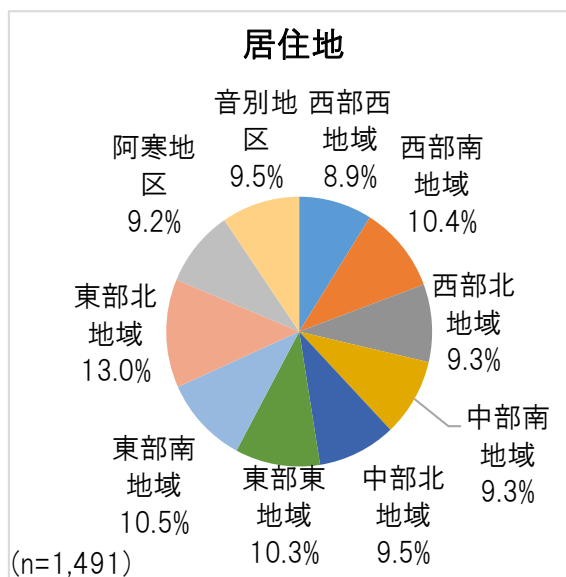
年齢別では、60歳以上の回答が59.6%となっている。

③職業



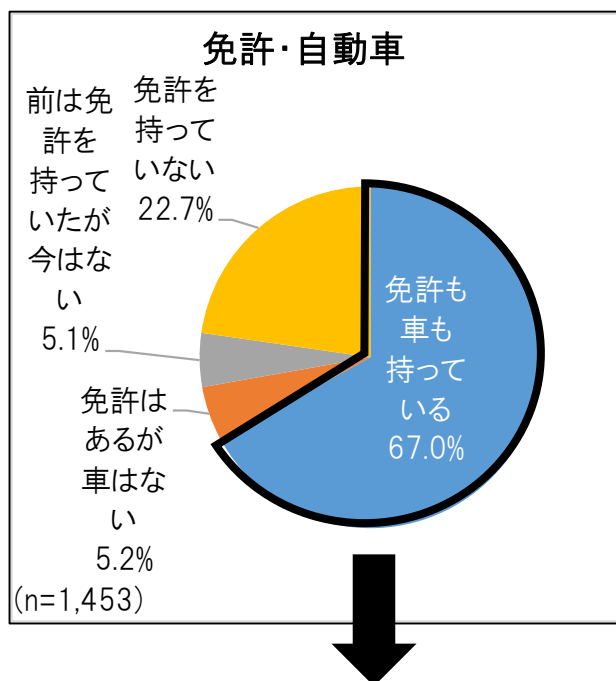
職業は「無職（34.4%）」が最も多く、次に「会社員（18.8%）」、「主夫・主夫（18.6%）」となっている。

④居住地



回答者の居住地の地域割合はほぼ同数となっている。

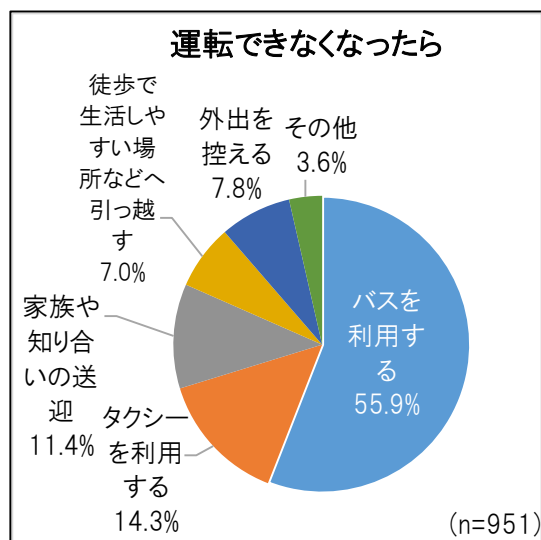
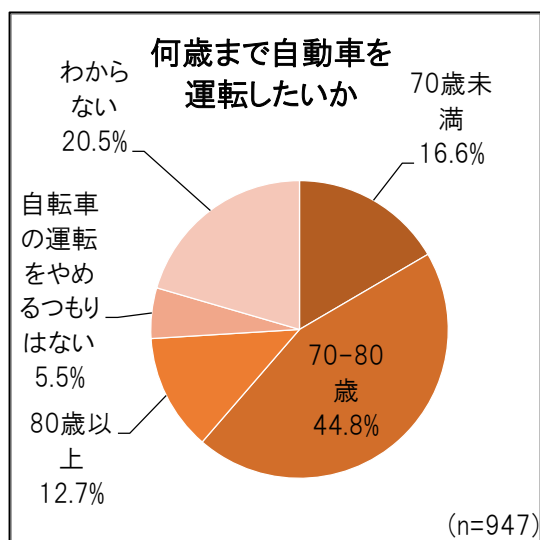
⑤自動車運転免許・自動車の保有状況



自動車運転免許及び自動車の所有状況については、67.0%の人が「免許と車も持っている」と回答している。

両方ともに保有している人のうち、44.8%の人が「70～80歳」まで運転したいと回答し、運転できなくなった後は55.9%の人が「バスを利用する」と回答している。

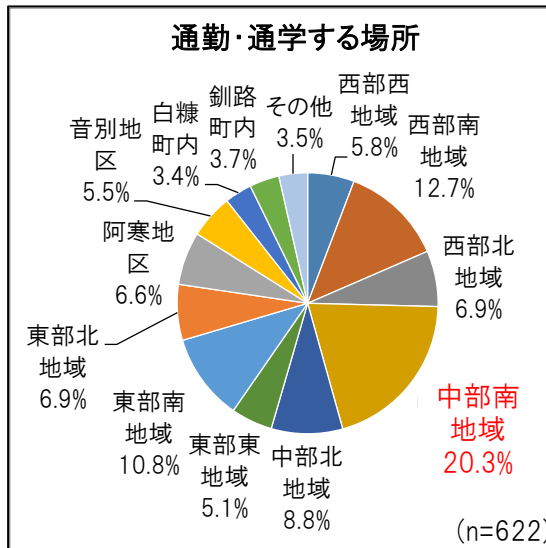
※免許も車も持っていると回答した方を対象



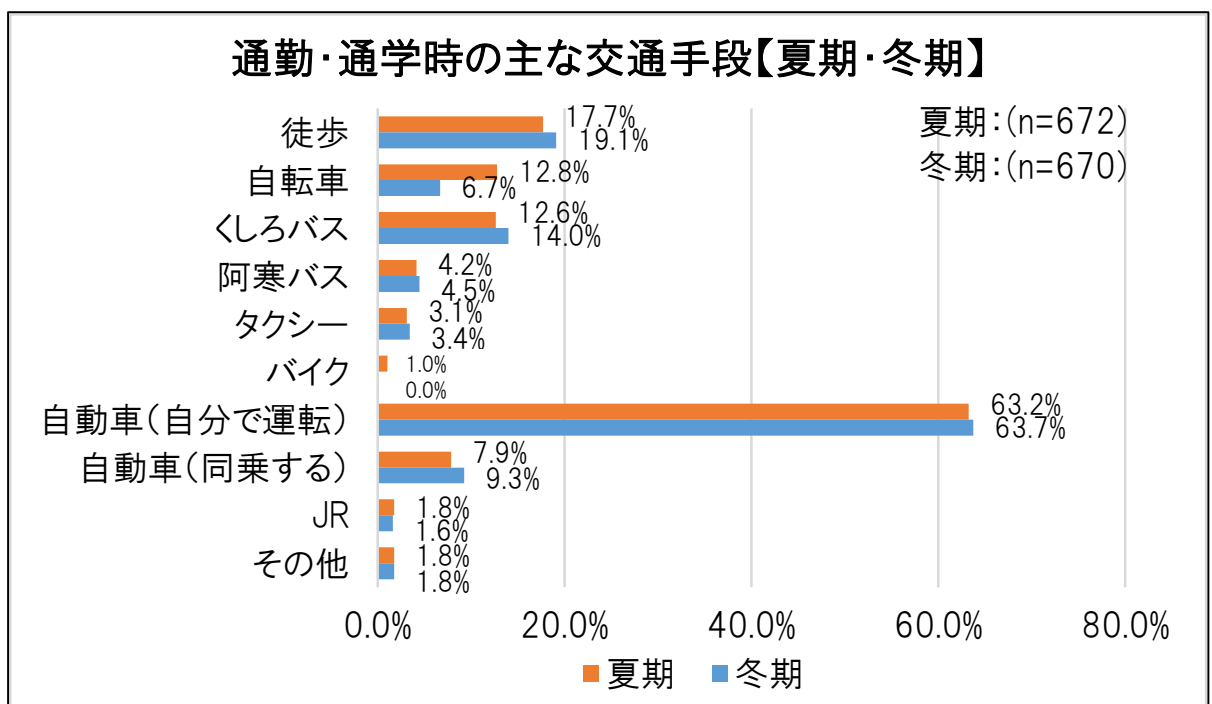
(2) 日頃の交通手段

①通勤・通学

通勤・通学する場所は89.4%の人が釧路市内となっている。
「中部南地域」への通勤・通学が20.3%と最も多い。

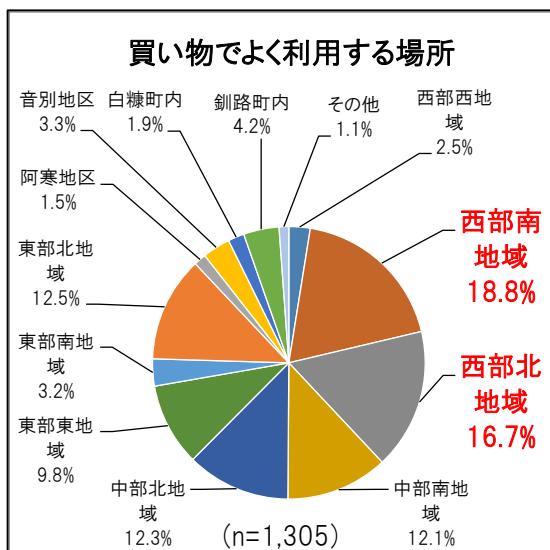


通勤・通学時の交通手段は、「自動車（自分で運転）」が63.2%と最も多く、
「バス（くしろバス・阿寒バス）」の利用は16.8%となっている。（夏期）

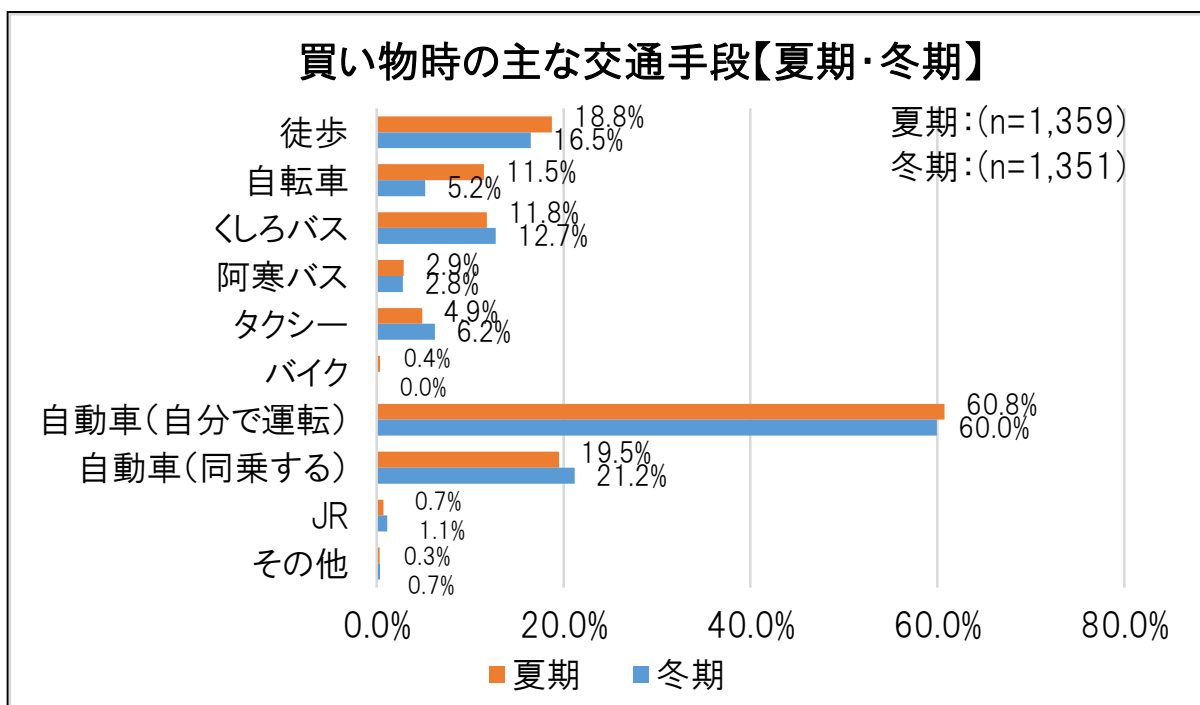


②買い物

買い物でよく利用する場所は92.7%の人が釧路市内となっている。
大型商業施設が多く立地している「西部南地域」が18.8%と最も多く、次に「西部北地域」の16.7%となっている。

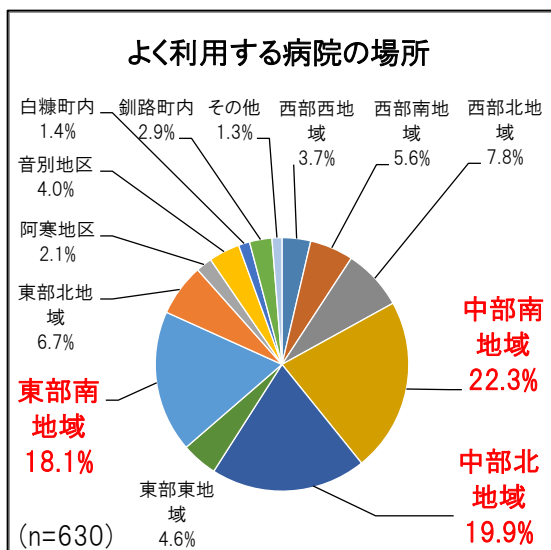


買い物時の交通手段は通勤・通学時と同様に「自動車（自分で運転）」が60.8%と最も多く、次いで、「自動車（同乗する）」が19.5%となっている。
バス（くしろバス・阿寒バス）の利用割合は14.7%となっている。（夏期）

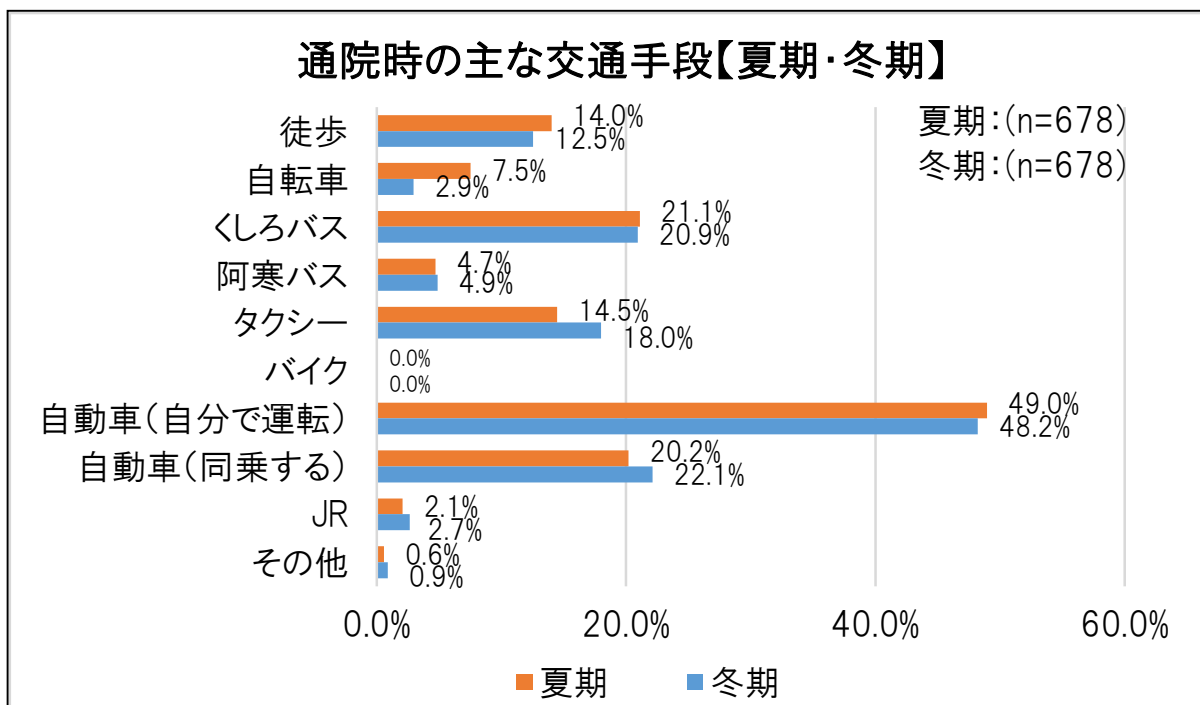


③通院

よく利用する病院の場所は94.4%の人が釧路市内となっている。
 釧路赤十字病院が立地している「中部南地域」が22.3%と最も多く、次いで、釧路労災病院が立地している「中部北地域」が19.9%、釧路三慈会病院や市立釧路総合病院が立地している「東部南地域」が18.1%となっている。

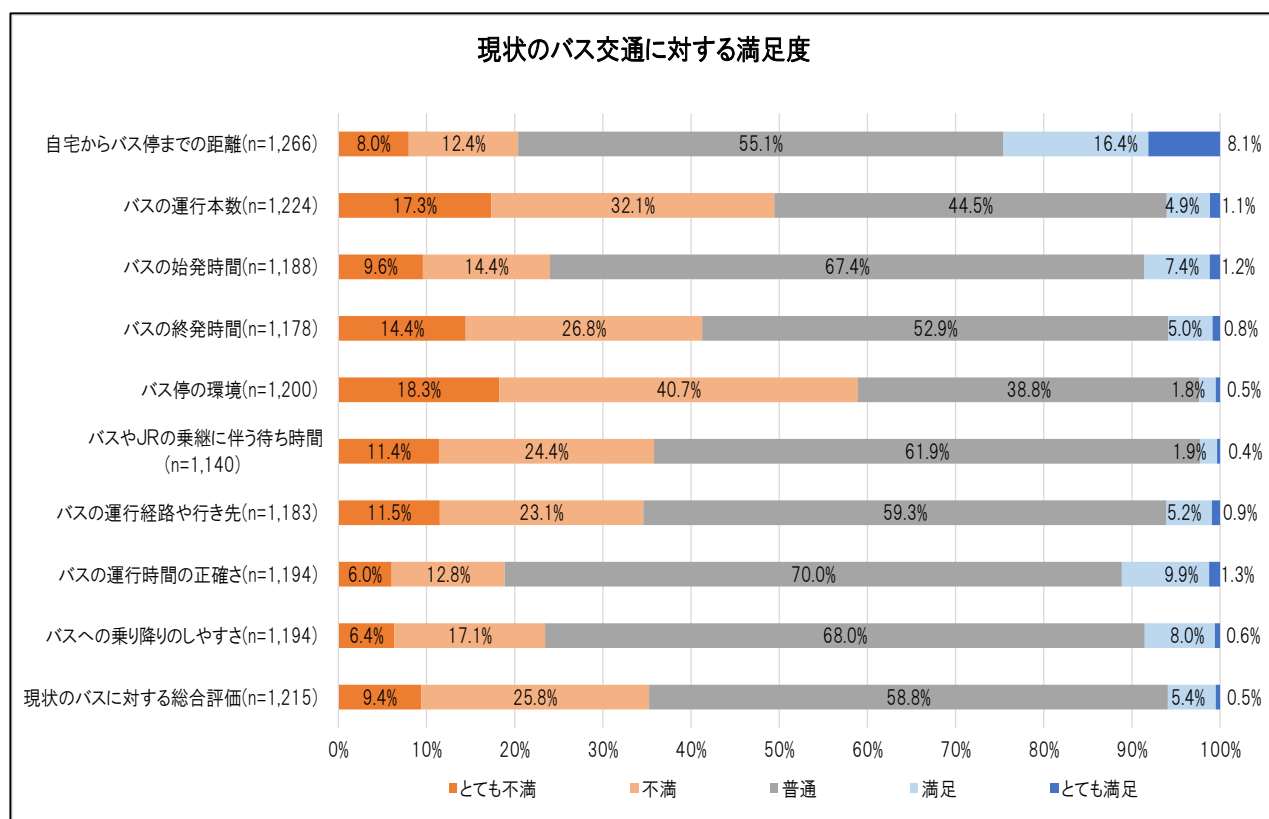


通院時の交通手段は「自動車（自分で運転）」が49%と最も多く、次いで、「バス（くしろバス・阿寒バス）」が25.8%、「自動車（同乗する）」が20.2%となっている。（夏期）



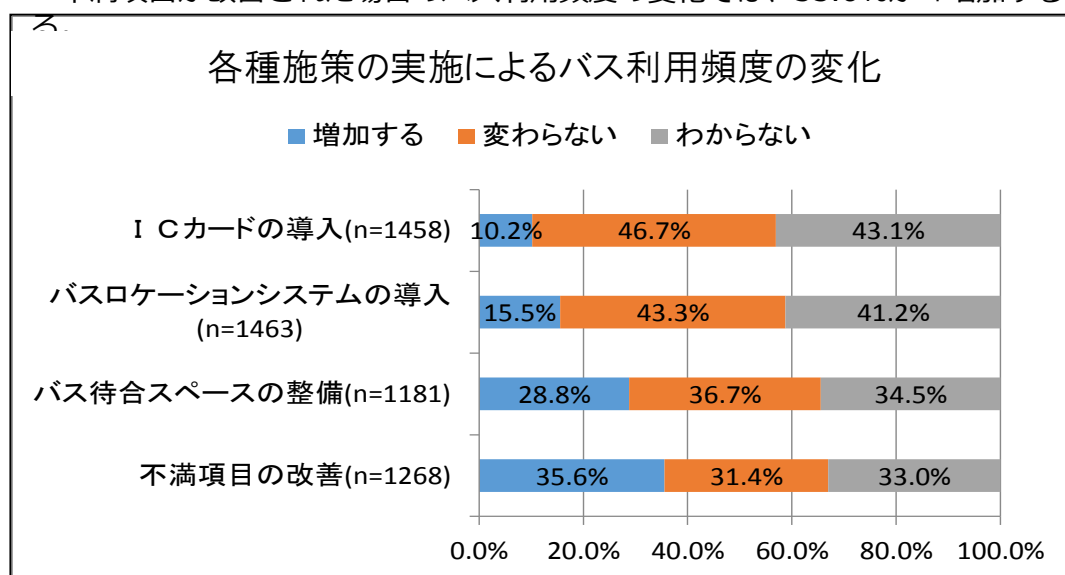
(3) バス交通の満足度

- ・現状のバス交通に対する満足度では、「バス停の環境」の不満度が最も高く、とても不満・不満を合わせ59.0%となっている。次いで不満度が高いのが「バスの運行本数」でとても不満・不満を合わせ49.4%となっている。



(4) バス利用環境の変化に伴う利用意向

- ・I Cカードが導入された場合のバス利用頻度の変化では、10.2%が「増加する」と回答している。
- ・バスロケーションシステムが導入された場合のバス利用頻度の変化では、15.5%が「増加する」と回答している。
- ・バス待合スペースが改善された場合のバス利用頻度の変化では、28.8%が「増加する」と回答している。
- ・不満項目が改善された場合のバス利用頻度の変化では、35.6%が「増加する」と回答している。



Ⅲ 学生ワークショップ

1 開催概要

(1) 実施目的

釧路公立大学、北海道教育大学釧路校、釧路短期大学、釧路工業高等専門学校¹の学生を対象として、学生が考える公共交通の課題・改善策・利用促進策を協議するためワークショップを開催。

(2) 実施回数

平成28年10月7日（金）、10月12日（水）

(3) 参加者

釧路公立大学9人、北海道教育大学釧路校11人、釧路短期大学3人、
釧路工業高等専門学校1人 延べ24人

(4) 主な意見

■バスを使わない理由

路線がわかりづらい、利用料金が高い、最終バスが早い、バス待ち環境が悪い（寒いなど）、住宅街を多く運行するため目的地まで遠回り 等

■望ましいバスネットワークについて

拠点と拠点を結ぶバス路線、定時性を確保したバス路線、都心部を低運賃で循環するバス路線 等

■バス利用促進策について

バスロケーションシステムの導入（スマートフォンの活用など）、居住地域別バスマップの作成・配布 等

■都心部の魅力向上策について

空テナントを活用した学生直営店の開設 等

■学生ができる行動

口コミやSNS等を活用したバスの情報発信、学生が考えるバスルートの立案、学生企画の小学生向けバスに関する教育イベントの開催、バス停の雪かき 等